

「大学間連携共同教育推進事業」中間評価結果

連携の種類	地域連携	整理番号	14
取組名称	多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点		
連携校 ※下線は代表校	<u>長崎大学</u> 、長崎県立大学、長崎国際大学		

(総括評価)

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

[コメント]

本取組は、長崎県内の国公立 3 大学の薬看統合教育体制に医学・歯学等が加わる協働教育体制の下、3 大学 8 学部が県内の 4 自治体・12 職能団体・1 法人と連携する「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」を組織し、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目的としている。本取組は参加大学が学習アウトカムを重視した順次性カリキュラムに基づく大学間単位互換の合同授業・合同実習を行い、大学間連携教育の実質化と質保証を図ろうとするなど、先進的な取組であると認められる。

教育改革については、各連携校が提供するコーディネート科目を含む教育プログラムの開発、成績評価法の統一、質保証システムの構築等が順調に進捗しており、大学間合同授業科目の開発が当初計画を超えて進むなど高く評価できる。

ステークホルダーとの協働・評価については、多様な専門職能団体や自治体と幅広い連携ができています。更に学外有識者による評価体制が工夫されており、本取組の実施状況が適切に評価・提言されることが期待できる。

取組の実施体制・継続発展については、連携 3 大学の学長による協議会を、本取組の基盤となっているコンソーシアムの運営体制の中に位置付け、学長のリーダーシップの下で各大学の特色を生かした連携が進められており、本取組の継続発展が期待できる。